

議 事 概 要 書

会議名称	令和6年度 第4回社会教育委員会会議（定例会）
日 時	令和7年3月18日（火） 会議：午後1時15分～午後2時30分
場 所	会議：伊那市役所 501会議室
出席者	伊那市社会教育委員：10名 教育委員会：教育長、教育次長、生涯学習課長、係長、担当
議 題	下記のとおり
議 事 内 容	
1 開会（教育次長） 2 あいさつ 教育長：中学校の卒業式ではあたたかい春日和だったが、翌日の小学校の卒業式では朝から寒い日で、午後からは雪が降った。また暖くなり、明日は残りの学校の卒業式となる。そんな暖かさ寒さを繰り返しながら桜の便りが来ていると思いながら高遠の桜を楽しみにしている。 今年度は、半数の委員が変わり、間もなく一年が終わろうとしている。この間、10回程度の様々な会議や研修、そのほか、多くのイベントに出向いていただいたとお聞きし感謝している。市報では、「社会教育委員が行く」で報告など書いていただいているが、楽しみにしている。 本日は、生涯学習基本構想の各部署の事業についてご意見をいただくようになるが、よろしくお願い致したい。会議後には「いいところ10選」ということで西箕輪と西春近の公民館へ行くと聞いている。委員の皆さんの地域の公民館とは違った良さや特徴があると思う。そこで学んだことや気が付いたことを御自身の地域の公民館へ持ち帰っていただけたら有り難いと思う。 会長：3月9日は中央区の区民総会があり、事業報告等がなされ、一年を締めくくった。また、15日には伊那東小の卒業式が行われ、子どもたちの呼びかけと感動的な歌声で盛り上がり、106名の卒業生が巣立っていった。4月4日にはその東小の入学式、6日には伊那公園での「桜まつり」が予定されている。 このように、3月から4月にかけては「締めくくり」「別れ」「人事異動」「出会い」「春の訪れ」「スタート」「改革」等さまざまな言葉で表現されるように、私たちの気持ちも揺れ動く時期である。 そして、今日は本年度最後の社会教育委員会会議である。昨年、4月19日に第1回の会議があり、5名の新たな委員お迎えし、それからほぼ1年が経った。各委員にとって、各種研修会やイベントへの参加、「我がまちのいいところ10選」等の活動を通して、社会教育・生涯学習とは何か、社会教育委員としてできることは何かを熟慮し、自問自答しながらの令和6年度だったかと思われる。本当にお疲れ様でした。また、私どもを陰で支えて	

いただき、ご尽力いただいた市当局の皆様方に感謝である。

本日は会議終了後「我がまちいいとこ10選」で西箕輪及び西春近公民館を視察しお世話になる。有終の美を飾りたいと思っている。

3 会議事項（進行：会長）

（1）令和6年度生涯学習基本構想の進行管理について

（資料に沿って係長から説明）

<質疑・意見等>

委員：やさしい日本語のやさしいとはどういったものだろうか。わかりやすいという意味であると思う。言語として優しく伝えるというもので、外国の方などにわかりやすいというもの。言語の伝達というものから考えると、やさしい日本語というものを説明するというのが難しいものである。

委員：関連して、やさしい日本語とは市の職員が外国籍の方が市役所に来た時に、やさしく接するにはという意味合いか。高齢者の方とか一般の方にたいしてのものなのか。

係長：一番は外国籍の方と接することが多いため、少しでもわかりやすく説明をして、専門用語というものを使うのではなく、わかりやすくどう説明するかというものである。高齢者や一般の方も含まれる。

委員：資料の2ページで、シルバー人材センターの利用活躍促進が目標に達しなかったというもののだが、高齢者向けのサービスが減ってきている・上手く利用されてきていないというものか。

係長：評判の良い事業ではあり、利用はされている。主には草取り・ゴミ出しで利用されていることが多いとのこと。精査も必要で、どういう理由で利用が下がったのか、そもそもの目標設定が正しいのか、考えていく必要があると思われる。

委員：私自身グループタクシーの運転手を行っている中で、1人暮らしのお年寄りがお店で大きな荷物を買って運びたいと困っている方もいる。芦沢にあるお助けサービスを紹介したが、シルバー人材センターの活用が草取り以外のこともできるのかという情報をお年寄りがどこまで知っているのかという状況。センター利用促進の広報を、デジタルタクシーやグループタクシーなどお年寄りがわかりやすくしていく工夫が必要。市報などにも照会はしてくれているが、たくさんの情報がある中でしっかり見てられない。ケアマネや民生委員が一人暮らしのお年寄りに情報発信をしていくのも必要かと思う。

係長：ご意見を、担当課へつなげていきたいと思う。

（2）令和6年度社会教育委員の実践活動について

・イベント等参加報告、地域の話題（各委員から報告）

- 1) 地域の大人と富県小学校4年生のしめ縄づくり
- 2) でえもんじ … 大きい文字という意味合いのイベント
- 3) 伊那市高遠町歴史博物館 冬のわくわく教室
- 4) 伊那部宿・雛祭り 雅楽演奏会

(3) 社会教育委員関連事業について（令和6年度報告）

（令和6年度行った事業について係長から説明）

(4) 社会教育委員活動一年を終えて

委員：今年から社会教育委員としてお世話になった。正直な話をする、1年間やってきたが、何をしてきたのかよくわからない。学校教育以外は全部社会教育ですよと言われる。公民館や高齢者クラブ等、みんな一緒になっていて自分の立ち位置がよくわからない時があった。まだ1年目なので、できないことも多く、難しいなという思いと、どうしようというのがあった。

委員：伊那公民館で行われた会議で引きこもりのことを扱ってくれたことが、とても印象的だった。いなっせでの会議で、高校生の発表とかがあって、いまの高校生はどんどんいろんなことをやるんだなあと思うけれど、反面、引きこもっている人たちがいるという両極端で、引きこもっている方たちを何とかしていく手立てはないのかなと思った。

委員：今年度からということで、いろいろなことが初めての体験ばかりで難しいこともあった。1年間やっていくうちに皆さんと打ち解けて、特に移動中の車の中で会話ができて、親しみを超えて1年間勉強させていただけて良かったと思う。

委員：西箕輪のわんぱく親子塾という未就園のお子さんと保護者の集まってくる体験教室に参加させていただいて、小さいかわいい子どもたちからいっぱい元気をもらうことができてありがたかったと思う。

委員：皆さんと接する機会が持てて、刺激があって良かった。あと、生活パターンにもメリハリが持てたと思う。研修会でいろいろ講演を聞いて情報を得ることができたわけだが、講演会後の分散会が少々ストレスでした。

委員：社会教育とは何なのだろう？とすごく悩んだ。教育とはというと、戦前の教育は国家のために死ぬというのが教育だったのだが、不幸な戦争のあと社会のために生きるという目標をもって教育しなさいとなり、最近では生涯教育として、自分が生きるための学習にシフトしてきている。そうした中で私たちが何をやったら貢献できるのかなあと試行錯誤の中、理論と実践がまったく一致していない。来年は、とりあえず地域の中では一生懸命やっているの、もう少し努力したいと思う。

委員：2期目となったが、社会教育とは何だろうというのはまだまだ分からない。委員になったときに、公民館の講座には参加しようとそこから始めたわけだが、そのおかげで美術館や歴博・創造館等に行くことができ、いろいろ知ることができ、学ぶことができた。伊那公民館での不登校の話は現実味があり、学校の先生や私たちのそうした立場から、その子一人のために先生がとられてしまうという話があったとき、教員もすごく大変な立場にあり、人手が足りないからじっくりとそこに関わることはできないというところが、これからの教育とは何なのかなと不安も感じた。また、親御さんもこれから先の心配事もすごいのではと思った。生涯にわたって社会に出ることがあればいいが、なかった場合にはどうしようと私も気持ちが沈んでしまったりした。おかげさまにこうした場で

隣に他の委員がいて笑わせてもらい、公民館も一緒なのでとても心強い相棒を得たと思います。

委員：何を話そうか考えていたことがみんなと同じだった。公民館長から打診をされた時に、年数回会議に出ればいいよと言われていたが、こんなに参加することがあるとは思わずにいた。社会教育委員とはどういう仕事をすれば良いのか本当にわからなくて、いろいろ調べたが結局わからなくて、その中で宮原さん・山岸さんが言っていた、伊那公民館で引きこもりの話が出た。自分は引きこもりの人たちのために何ができるのだろうか全然思い浮かばなかった。何ができるのかわからないと自分も感じた。また、生涯学習センターで高校生の話を自分も聞いたが、UTパレットをやっている方と話す機会があり、高校生が元気だと地域の活性化になると感じたので、伊那市でもいかに高校生や中学生とかが元気であることが伊那市の元気につながるかと思う。何よりの収穫は皆さんと知り合えたということ。本当にいい一年間を過ごさせていただいた。

委員：いろいろな会議に出てみんなすごいなと思う。自分でやってきていることの中で夏休みのおいで塾が一番楽しいと思う。地域と結びつくことが必要と感じるが、なかなか仕事が忙しく、地域の方たちと、ということができていないので、年数を重ねてはいるが、少しずつでも皆さんの様にやっていければいいなと思う。

委員：長い方が皆抜けてしまったことで、新しく5名の方が加わり、新しい息吹を吹き込んでいただき、一年間楽しくやらせていただいた。社会教育委員という立場から、池上秀敏の審査を依頼された。タブレットでの審査で、もちろん掲示された作品もあるが、こういう時代かとびっくりしました。なんども、見直せる良さもあり、実際の作品を見たりと社会教育委員になっていなかったらこうした経験もなかったと思う。もし、社会教育委員になっていなかったら何をしていたかなあときどき思う。

4 その他

- ・次回の会議予定について（第1回社会教育委員会会議 4月17日（木）501会議室）

5 閉会（副会長）